

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・一番の売れ筋は弁当でハブル期の頃を超えている。また、ビールと一緒に乾き物やそう菜も買うといった衝動買いが目立っており、アイスクリームやデザートも好調である。前年比で売上が111%、来客数は106%となっている。
		通信会社（営業 担当）	競争相手の様子	・最近規制が緩和されてスムーズに通信会社を乗り換えることが可能になった。これには、当社だけでなく他の通信会社の成長が背景にある。
	やや良く なっている	百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・前年に比べて1日営業日数が多かった分の売上を差し引いても、前年並みの水準を確保しているため、やや上向きである。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・先月までは苦戦していた紳士衣料が、前年実績を上回り好調に推移している。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・一過性がはっきりしないが、来客数が伸びてきている。今年の被害額はゼロではないが、第一次産業が前年ほど台風の影響を受けなかったことが一因である。
		衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・パンツの売上が好調である。販売客数、一品単価、客単価共に前年に比べ若干良くなり、全体では前年比124%となっている。
		家電量販店（店 長）	来客数の動き	・残暑が長く続いたおかげで、季節商品、とりわけエアコンが好調である。来客数も増加している。
		乗用車販売店 （従業員）	お客様の様子	・景気は大分良くなってきていると話す客が多くなっている。特に、鉄道新線の開通効果が出ているようである。
		住関連専門店 （店長）	販売量の動き	・来客数に大きな変化はないが、買上点数は増加傾向にある。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・最近、流動客、女性同士の食事会が増えている。
		その他飲食〔居 酒屋〕（店長）	単価の動き	・客の動きをみていると、以前よりも1品又は1ドリンクの追加があるので、その分、3～5%くらい客単価が上がっている。
		タクシー（経営 者）	お客様の様子	・昼、夜共に良かったので、前年同月比で9%の増収となっている。
		その他レジャー 施設〔アミュー ズメント〕（職 員）	来客数の動き	・来客数が増加している。大金を動かすのは難しいが、それほど大きくない金額であれば使うという客が増えている。
		美容室（経営 者）	それ以外	・美容組合の組合員による店舗開設時の融資申込件数が今月になって急に増えてきているので、良くなっている。
		設計事務所（所 長）	お客様の様子	・契約に至るまでの時間が短いので、とても効率良く仕事ができている。
住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・9月は、来年3月までに転居したいという一般的な需要で少し販売量が増えている。ここ何年かでは珍しく、景気が少し改善されてきたようである。		
変わらない	商店街（代表 者）	販売量の動き	・得意先の身の回り品を売る店が今月、来月と続けて閉店に追い込まれている。5割引でもまだ思うように商品が売れないようである。	
	百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・クールビズの紳士服への影響はプラス、マイナス両面がある。スーツや袖物については、8月から9月の残暑まで非常に減少している。	
	スーパー（経営 者）	単価の動き	・3か月前と比べると全体的には横ばい状態である。客単価が3.7%程度落ち込んでおり、現状下げ止まる傾向はない。	
	スーパー（統 括）	単価の動き	・単価もようやく下げ止まりをみせてきており、婦人、紳士衣料では単価が上向いている。加工食品も、健康指向商品の動きが活発化し、全体を押し上げるだけのボリュームになりつつある。生鮮食品は秋刀魚の豊漁や野菜の相場安で点数の伸びはあるものの、全体的には横ばいである。	
	コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・前年に比べ、来客数が5%減少している。米飯の客が、近くの牛丼安売り店へ流れている。	

	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・来客数が前年比で約10%減少したものの、客単価が高かったため、売上は前年同様となっている。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・8月下旬は悪かった販売も、9月に入り持ち直しの傾向にある。しかし、客がいろいろな販売店を回り、低価格車を購入する傾向は非常に強い。また、走行面や年式から買い換えを考えている客は多いが、金額が高くても車検を受ける客が非常に多い。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・中間決算月だが新車の販売台数は前年実績を下回ったままである。
	高級レストラン (店長)	販売量の動き	・一部に回復の兆しは感じられるが、依然として客の態度は慎重である。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・例年、夏期休暇明けから紅葉時期までのつなぎで苦戦する月ではあるが、今年は合宿などの団体を例年並みには取りきれなかったことが大きく響き、いつも以上に苦戦している。
	都市型ホテル (経営者)	お客様の様子	・安値での販売競争が続いており、底で安定している状態である。客は通常料金では泊まらず、何らかの割引方法を使っている。団体料金などは高めに設定すると「他にします」と言われてしまう。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・来館数の割に、売上が伸びていない。単価がまだ低調である。
	旅行代理店(従業員)	単価の動き	・原油価格高騰が燃油サーチャージなどで、客に直接反映され悪影響が出てくる。
	観光名所(職員)	お客様の様子	・2回の3連休の入込は例年以上であったが、スーパー等で買物をし、自分の別荘で食事を済ますという人が多かったことから、レストラン、ホテル関係の売上は、例年を下回っている。
	ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・夏の来場者の減少から、周辺コースでは9月のプレイ料金を非常に安くしたため、当ゴルフ場への来場者は減少したが、客単価はさほど落ちていない。
	競輪場(職員)	お客様の様子	・来場者数、購買単価共に変化がみられない。
	その他サービス [自動車整備業](経営者)	お客様の様子	・個人客のほとんどは車検を安く済ませたいといい、何日も前に車検の切れた車両や古い年式の車両の入庫が目立つ。
	設計事務所(所長)	競争相手の様子	・当事務所はここ何か月か仕事が途切れず、ずっと忙しくしており、同業者でも何社かそういうところはあるが、逆に仕事が全然ないというところもある。全体的に考えると良くも悪くもない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・安い不動産への引き合いはかなり多いが、一般的な価格の不動産だと見向きもされない。景気が良くなっているような気もするが、反面、田舎の方は自主廃業があらゆる業界で目立っているようである。
やや悪くなっている	乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・展示会を開催しているが、8月ごろから圧倒的に来客数が減っている。その上、単価の安い車しか売れない。
	その他専門店 [携帯電話] (営業担当)	販売量の動き	・お盆過ぎからの販売数の落ち込みは9月に入っても続いている。10月初旬に比較的売れ筋メーカーの機種などの発売が予定されており販売増を見込んでいるが、新機種発売まではこのままの推移となる。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・選挙後数日間忙しかったが、このところまた活気がなくなってきており、選挙期間中の落ち込みを取り返しきれなかった。予約も低調で、フリー客も少ない。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・昼間の病院に通う客や工業団地、流通団地に向かう営業の客はいつもと変わらないが、夜は選挙が終わった後から非常に客が少なくなってきており、売上は8月より4%ほど減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・農繁期と衆議院選挙が重なり、特に夜間のタクシー需要が一向に伸びない。
	遊園地(職員)	来客数の動き	・愛知万博にファミリー層が流れたことが一番の原因である。
悪くなっている	コンビニ(経営者)	競争相手の様子	・自由化により競合相手が酒を取り扱えるようになったことから、アルコールの売上が大幅に落ちている。
	コンビニ(店長)	それ以外	・2度の台風で来客数が激減し、売上が悪くなっている。

		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は祭りがあり、人口5万人の地域に30万人ぐらいの人出があったが、タクシーを利用する人はわずかである。
企業 動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・全体的には輸入物に押されているが、国産ワインの新種が出回ってきており、わずかだが活性化しつつある。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・トラックを始め、特殊車両、産業機械、工作機械等も好調に推移している。特に、トラック関係は排ガス等の関係もあり、親工場も来年まで見通しは良いということである。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年は6月が受注のピークであったが、今年の6月は前年に比べ10%受注が減少している。今月は前年と比べて横ばいなので、3か月前と比べるとやや良くなっている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・製造業の設備投資が増加している。9月に入って設備投資を目的とした融資が何件か出ている地域があり、売上もそれにつれて上昇気味とのことである。
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注量、販売量共に、増加傾向にある。受注単価は底値安定で、収益面では厳しい状況が続いている。中堅企業の投資がやや活発化してきている。一方、中小企業は相変わらず底冷えしており、企業間格差が更に開いてきたように感じる。	
変わらない	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的には注文は入ってきている。ただし、一部商品では産廃価格が3.3倍に上がったため価格改定をしたが、受注はまるで入ってきていない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・飛び込みの特注はあるものの、トータルすると前年度と変わらない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の新規製品が生産開始となったが、受注量は微増である。一方、他の取引先からの受注が、在庫調整により減少している。	
	その他製造業〔看板〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、受注単価はあまり変わらないが、ガソリン等資材の値上がりや価格に転嫁できないところが気掛かりである。	
	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	取引先の様子	・今まで以上に体力が弱まり、仕入れができない会社がある一方、秋の商戦に備え、積極的に新作を取りそろえる会社も出てきている。今まで以上に明暗がはっきりしてきているが、多少明るさも出てきている。	
	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・今のところ、しばらくテナントの新規入居、退去がなく、ほぼ現状維持である。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・今月のチラシ出稿量は前年比111%であるが、前年のアテネオリンピック後の落ち込みと、衆議院選挙効果を考慮すると、一昨年ベースに追いついたところである。衣料問屋の話では、春ごろから企業のユニフォーム需要が好調で、冬物も約30%増して、一度ユニフォームを廃止した企業で再び導入を検討しているところもあるとのことである。	
	その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・官公庁及び製造業からのタイムコマーシャルが減少傾向にある。サービス業、不動産業、流通業からのスポットコマーシャルは、件数は増えているが、売上高は横ばいである。	
やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・原料の価格が今年は3年前の約2.5倍にまで上がっており、利益分をほとんど食われている状態である。	
	輸送業（営業担当）	それ以外	・配送依頼は増えているが、燃料高のために特に長距離便の本数が減っている。協力会社でも運賃の良い仕事を選んでのことから、長距離便の本数を減らしており、帰り便がつかまえにくく、厳しい状況になっている。	
	不動産業（経営者）	取引先の様子	・アパート管理の修繕費を出し渋るオーナーが多い。	
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・利益率が悪いと、宣伝広告予算が期中で削られる傾向が目立ってきている。9月中間決算が思っていたより良くない現状がみえる。また、売掛金の未回収が前年同時期の5%増となっている。	

	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業100%依存企業のため、公共事業削減の影響を受け続けている。発注件数が極端に少ないために赤字でも受注してしまう企業があり、次年度設計単価への影響も心配である。
雇用 関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・ここにきて、製造業、サービス業全般にわたり、求人広告の依頼が大変増えている。非常に活発に動いており、景気が良い。
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・相変わらず、製造業からの求人が非常に多い。しかも早急に派遣してほしいという話がある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の依頼が増加傾向にある。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・3か月前ごろは採用活動の早期化により夏以降の求人数が極端に減少するのではないかとの見込みもあった。しかし現在、学校への直接求人は少ないものの、企業との情報交換により、まだ企業側が充足していないことや、内定辞退により採用活動の通年化が増加していることがうかがえるので、期待している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求職者数の動き	・求人募集は3か月前と同じくらい多く出ているが、求職者数は少ない。業種によって異なるが、周辺企業なども同じように求人を出しても求職者が少ないということである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・多少、業種により正社員の募集が増えてきているが、全体的に求人は横ばいである。派遣社員、パートの求人は多くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全国展開する大手家電販売会社のエリア拡大に伴う新規出店及び既存店の欠員補充で約1,200名の求人があったが、それを除くと、新規求人は約4,800と3か月ぶりに5,000を下回っている。製造業を中心に求人の減少傾向が強い。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・相変わらず求人は更新によるものが多く続いている。そのなかで、建設の求人は増加傾向がみられるが、製造業では減少するなど、業種によって一進一退が続いている。	
職業安定所（職員）		求職者数の動き	・求人数はわずかながら増加傾向にある。求職者数も増加しており、中でも求職者における在職者の割合は増加傾向にある。賃金や待遇など、より良い条件を求め来所する人が多いが、希望に合う求人はまだ少数である。	
学校〔大学〕（総務担当）		求職者数の動き	・各企業で人が集まらないためか、学校に送られてくる求人票は前年より大幅に増えている。学生の内定率は前年同様、この時期で約71%となっている。	
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・通常9月は募集意欲が高まり、注文もくるが、今年に限っては他社をみても募集そのものがあまり出でず、相当冷え込んでいる。もしかしたらサイクル的に遅いスタートで、10月に盛り上がりがるのかもしれない。
	悪くなっている			